

5. 6年生向き

「ぼくがほしいのは、そういう言葉じゃないような気がする。」

あしたのことば

森 絵都 (もり えと) / 作
小峰書店 177p F/¥



横浜から福岡に引越した裕。転入した6年2組はいいクラスだし、先生はいつも明るく声をかけてくれる。父さんも新しい生活に張り切っているけれど、裕はなんだか疲れていて…。

『あしたのことば』『帰り道』など、「ことば」にまつわる8つの物語。

「習わなかったことに疑問をいadakキニ子さん、すばらしいです！」

キニ子の日記 (上)

間部 香代 (まべ かよ) / 作
クリハラ タカシ / 絵
WAVE出版 77p F/¥1



青春、浮世絵、かえるの合唱。

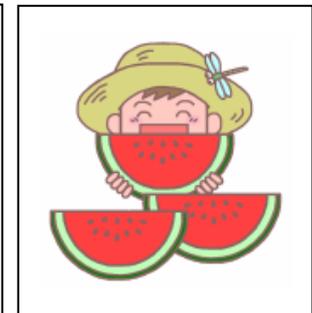
6年生のキニ子は、「気になること」を宿題の日記につづる。

すると、赤字で先生からのコメントが書かれて…。

ちょっとした日々の疑問が、勉強と雑字に発展する1冊。

なつやす 2021年夏休みすいせん図書 としょ

なつやす 夏休みは、すっきり読書!! どくしょ



おお 磯 町 立 図 書 館

「きっとそうだ、明日探検しようよ。」

十五少年漂流記

ながい夏休み

ベルヌ／作

末松 氷海子（すえまつ ひみこ）／訳

講談社 162p F5/ペ



もしも子どもだけで、無人島で暮らすことになったら…。航海旅行に出かけるはずだった少年たちが嵐に巻き込まれ、漂流の末にたどり着いたのは誰もいない無人島だった。今から約130年前に書かれた、サバイバル冒険物語。

「みんな同じ境遇だったから、わかり合えたのかな。」

福島に生きる凧ちゃんの10年 家や学校や村もいっぱい変わったけれど

豊田 直巳（とよだ なおみ）／写真・文

農山漁村文化協会 32p 36/ト



小さい頃、福島県飯館村にある、明治時代に作られた大きな家に大家族で暮らしていた凧ちゃん。ところが東日本大震災で原発事故が起き、村から避難しなければならなくなった。それから何度も引越や転校をした凧ちゃんと、ふるさとの10年間の様子を伝える。

「僕は将来どんな仕事をするんだろう？」

なぜ僕らは働くのか

池上 彰（いけがみ あきら）／監修

学研プラス 227p 36/ナ



東京の進学校に入学したものの、不登校になった隼人は広島の中学校に転校することになった。

本のデザイナーの叔母が今作っているのは、子ども向けの「働くこと」についての本。夢、働き方、職業…隼人は本を読み、将来について考え始める。

「日本人の日常の中に、鬼はいきづいている。」

鬼大図鑑

田村 正彦（たむら まさひこ）／監修

さがわ ゆめこ／画

金の星社 143p 38/オ



色々な物語に登場する「鬼」。誰もが知っているけれど、鬼って一体何なのだろう？

この本は「般若」「なまはげ」「両面宿儺」など、世界中の57体の鬼を紹介している。鬼にまつわる伝説や神話、民話を通じて鬼の全貌に迫る。